

中世イスラーム圏のユダヤ商人の協同事業

嶋田 英晴

1. はじめに

10世紀初頭にイフリーキーヤ（現在のチュニジア）で建国したファーティマ朝（西暦909-1171年）は、王朝財政を支える重要な支柱として対外貿易による収益を重視し、積極的な商業推進政策を展開した。このため、10・11世紀には、この王朝の下で地中海南岸における国際交易がかつてない規模で行われるようになった。

ところでこの時期の地中海南岸で活躍した商人の活動は、様々な商業上の協同事業によって営まれていたが、それらの協同事業は大きく二種類に分類することが出来る。その一つは法制的に制式化された、いわば“公式”なものであり、具体的にはアッバース朝以来飛躍的な発展をみた合資組合（shirka）や持分資本（qirā）を指す。これらは比較的短い一定の期間、特定の事業毎に商人どうしが資本や労務を提供し合って行われる商業形態で、商人間の契約によって初めて成立した。しかも、契約の際、各人の出資比率、利益の配分や損失に対する責任分担があらかじめ詳細に定められた。これらの公式な協同事業については、欧米でも古くから関心が寄せられ、本稿で扱う中世のみに限っても、これまで多くの研究が行われてきた^①。

これに対して、もう一つは、特定の宗教・宗派などの相互信頼、血縁や友情といった商人間の“非公式”な人間関係に大きく依存した協同事業である。これらは交友関係（uqba）や親交（adaqa）などと呼ばれ、協力し合う期間や事業内容についてあらかじめ定めないが、自身の商業活動と平行して遠隔地にいる相手のために常に臨機応変に活動し、相手のためにより大きな利益をもたらそうと双方が努め合うものである。そして、公式な協同事業に加えてこの非公式な協同事業こそが各地の商人間に張り巡らされたネットワークを支えていた最も重要な要素であった。商人間のこうした非公式な協同事業については、ゴイティンやユドヴィッチ等によってその重要性が指摘されつつも、彼等による二、三の論考^②を除けば、これまで全くといってよいほど手が付けられていないのが実情である。

なお、ゴイティンは公式と非公式については定義をせず、両者の間の区別も明確ではない。一方、ユドヴィッチは前者については、「ある制度がその構造と規則が多かれ少なかれ法や慣習によって正確に定義されており、諸々の権利の主張や不平の除去のための明確な境界や目標を有しており、その目標を達成するための定まった方法や手続きを備えていること」と定義している。これに対して後者は、「前者の持つ諸特性を持たず、構造や視覚上の形式を欠いているが、非常に柔軟性に富み、事実上非常に私的なものである」としている^③。

以上の事柄を踏まえて本稿では、公式・非公式な協同事業が共に、商人間のネットワークの形成に大きく寄与しており、かつそれらがいかに宗教と関わりを持っていたかを探っていくことと

したい。しかし、まず当時の時代状況について概観しておくこととする。

2. 10世紀までの地中海の状況

国際交易においてアッバース朝が最も重視したのは、ペルシャ湾を経由するインド以東との通商関係であり、この通商関係は専らインド洋を舞台として展開されていた。これに対して、地中海は7世紀に始まるアラブによる大征服以来、アラブの海軍とビザンツ海軍が度重なる交戦を繰り広げてきた舞台であり、イスラーム勢力からは長い間「ビザンツの海」(Baḡr al-Rūm)と見なされ、敬遠されてきた。実際、アラブによる北アフリカ征服の当初から支配領域の拠点となる諸都市が地中海に面する沿岸部ではなく、内陸部に建設されたのも、ビザンツ海軍による急襲に対する防衛を主な目的としてであった⁴⁾。しかし、9世紀前半からは、地中海南岸及びアンダルスのイスラーム勢力による地中海の島々への進出が顕著になり始めた。その代表的な例が、イフリーキーヤを拠点としたアグラブ朝(Aghlab 800-909年)によるシチリア島の征服である。この征服活動は827年に開始され、878年に完了した。この他にも9世紀中にクレタ島、キプロス島、コルシカ島、サルディニア島、バレアレス諸島、南イタリア地方がイスラーム勢力の支配下に組み込まれることになった。この結果、ビザンツ海軍はアドリア海北部、エーゲ海北部、そして黒海に封じ込められることになった一方、イスラームの商船はシチリア島やイフリーキーヤを経由することによってアンダルスとエジプト・パレスティナの間を比較的平穩に行き来できるようになったのである。地中海におけるこのイスラーム勢力優位の状況は、10世紀にも継承されていたが、10世紀において地中海に影響力を及ぼしていたイスラーム勢力はアンダルスの後ウマイヤ朝、909年にイフリーキーヤで建国したファーティマ朝、そしてエジプトを支配していたイフシード朝(Ikhshīd 935-969年)であった。なかでも、とりわけ積極的に海軍力による地中海進出を推進したのがファーティマ朝であった。そうしたファーティマ朝による、地中海に対する積極的態度を最も顕著に象徴するのが、内陸部ではなく、地中海沿岸に建設された首都マフディーヤ(al-Mahdiyya)である。ファーティマ朝は、建国以来東西にその支配領域を拡大していったが、この王朝の下で、地中海はイスラーム勢力にとって通信と運輸の大幹線の役割を果たすようになったのである⁵⁾。

折しも、8世紀半ば以来150年間の長きに渡って繁栄を誇ってきたアッバース朝では、9世紀後半以来のカリフ権力の衰退に伴って帝国内の至る所で独立の小王朝が樹立され、その中心地イラクにおいても政治的、経済的、社会的、文化的混乱を迎えており、その影響は東西交易の安定にも大きな影をなげかけるようになっていた。そして、10世紀初頭から商人、職人や知識人などがより安全な活動場所を求めて帝都バグダードを中心とするイラク地方から各地へと流出していったのである。そして、これ等の大量の人口の主な移動先がパレスティナ、エジプト、マグリブ、アンダルスなどの西方地域であり、特に10世紀半ばまでにおいては、商業推進政策を積極的に推し進めていたファーティマ朝下のマグリブであった。こうした大量の人口の流入を受けて、イフリーキーヤはシチリア島と並んで、アンダルスとエジプト間の中間地点に位置する地中海交易の中心地へと発展していった。当然ファーティマ朝の首都マフディーヤは、イスラーム圏の商人のみならず、イタリア諸都市国家からやって来る商人達までもが集う、地中海における大交易中継

地となったのである。また、イフリーキーヤの古くからの都市カイラワーンも、サハラ砂漠を縦断するキャラバン貿易によってもたらされる大量の金によって繁栄を謳歌することとなった。こうして、10世紀前半を通じてファーティマ朝下のマグリブ商人達の活動は絶頂期を迎えた。この背景には、購買力の上昇を受けて東方の物産を渴望し始めたヨーロッパ諸国からの商人による大量の買い付けという要因があった点を見過ごしてはならないであろう⁶⁾。

やがて、当初からエジプト進出を目指していたファーティマ朝が969年にイフシード朝を破って肥沃なエジプトを征服し、その勢いをかってパレスティナの一部とヒジャーズ地方にも進出すると、地中海交易は、新たに脚光を浴びはじめた紅海貿易と有機的に連動するようになった。そして、973年にはファーティマ朝の宮廷が新しく建設されたカイロに移動したこともあって、マグリブを拠点として活動していた多くの商人が、今度は東のエジプトへと移動していったのである。勿論一方では、相変わらずイラクやイランからの西方への人口の移動が継続していたが、ファーティマ朝によるエジプト征服以降は、マグリブを経由せずに直接エジプトへ移住するのが一般的となり、そうした状況が10世紀末まで続いていた。

いずれにしろ、ファーティマ朝がイフリーキーヤを拠点としていた約60年間に地中海交易において最も重要な役割を果たしたのは、東方イスラーム圏からマグリブに移住してきた商人達であり、その中のある者は、ファーティマ朝の宮廷がエジプトへと移動したことに伴ってエジプトへと商業上の拠点を移し、またある者はイフリーキーヤに留まって引き続き地中海交易に従事したのであった。この二つの地域に分かれて交易活動をするようになった数多くの商人の間には、両地域にまたがる強力なネットワークが形成されていたものと考えられる。そこで本稿では、両地域の商人の間に結ばれてそのネットワークを支えていた公式・非公式な協同事業について考察することとしたい。

3. 公式な協同事業

『コーラン』の「雌牛の章」の275節、276節に以下のようにある。

利息を喰らう人々は、(復活の日)すつと立ち上がることもできず、せいぜいシャイターン(サタン)の一撃をくらって倒された者のような(情けない)立ち上がり方しかしないであろう。それというのも、この人々は「なあに商売も結局は利息をとるようなもの」という考えで(やっている)。アッラーは商売はお許しになった、だが利息取りは禁じ給うた。神様からお小言を頂戴しておとなしくそんなこと(利子を取ることを)をやめるなら、まあ、それまでに儲けた分だけは見のがしてもやろうし、ともかくアッラーが悪くはなさるまい。だがまた逆戻りなどするようなら、それこそ地獄の劫火の住人となって、永遠に出してはいただけまいぞ。

アッラーは(最後の審判の日には)利息の儲けをあとかたもなく消して、施し物には沢山利子をつけて返して下さる。アッラーは誰であろうと罪業深い無信仰者はお好みにならぬ(井筒俊彦訳)

また、この他にも「ギリシア人の章」の39節など、至る所で利子の禁止と喜捨(ザカート)や

施しをうたっている。

預言者ムハンマドの頃（西暦6世紀後半から7世紀初頭）の国際商業都市メッカでは、商業組織が発達し、定期取引や各種投機業が重い比重を占めていたという。そうしたなか、利子付き貸借も日常的な慣行として行われていたが、もうけるためには他人を犠牲にしても構わないというような風潮が強まり、そうした拝金主義の中に真の信仰よりも「金」を尊ぶという一種の偶像崇拜を見たムハンマドは、同胞愛を強調する宗教的要請に基づき、後にイスラーム教として利子を厳しく禁止するに至った。

一方ユダヤ教では、「申命記」の第23章の20節、21節に次のようにある。

同胞には利子を付けて貸してはならない。銀の利子も、食物の利子も、その他利子が付くいかなるものの利子も付けてはならない。

外国人には利子を付けてもよいが、同胞には利子を付けて貸してはならない。

これは、ユダヤ教徒が同胞から利子を取ることを禁じた掟であるとともに、外国人（＝ユダヤ教徒からみて異教徒のこと）からは利子を取っても構わないとすることにより、ユダヤ教徒の信用業務を是認する根拠となっている。預言者ムハンマドが利子を厳しく禁止した理由の一つは、当時対抗関係にあったメディナ（当時の名はヤスリブ）のユダヤ教徒を攻撃することでもあった。即ちイスラーム教がユダヤ教の単なる模倣でないことを強調する必要性もあり、民族的枠組を突破しようとしたムハンマドは、上記のようなユダヤ教徒の態度を「女人の章」の161節などで激しく非難しているのである。

同じくキリスト教においても、イエスがエルサレムの神殿から両替商人達を追い払ったという『新約聖書』の福音書の記述などもあって、利子付き貸借は「ウストラの禁止」というかたちで厳しく禁じられた。しかしイスラーム世界では、中世のキリスト教ヨーロッパ世界とは異なり、早くから商品貨幣経済へと発展したため、どうしても現実と『コーラン』の規定とのギャップが問題となった。そのためズインミー（イスラーム世界の庇護民）であるユダヤ教徒や一部のキリスト教徒などをイスラーム世界の金融業者として利用したり、法学者達が知恵を絞って禁止回避の方法を探ったのである。

「利子付き貸借禁止」回避の方法としては、貸し付けからの剰余利得（利子）と、投下資本からの利得（資本利潤）とを厳密に弁別し、前者は厳しく非難するが、後者は資本を委託して得られる商業による利潤としてこれを容認するというものである。具体的な方法としては、協同事業を起こすということである。すなわち、貸し手は一定の金額を提供し借り手はこれでもって事業をし、かつ貸し手の投資分を損失の場合も保証する。さらに一定の利潤分配を保証すると同時に、貸し手は借り手に名目だけの貸金を支払い、損失の場合の分担比率を決める。ただし、貸し手の損失負担を事実上無効にするために、その場合は事実上提出の難しい証拠を必要とするものとする。そしてやがて期限がくると、元金と一定の保証された利潤が返還されるのである。こうしてイスラーム世界では、商業資本の貸し主と借り主が利潤の一定割り前を持ち分として取得する(公

式な) 協同事業が独特の発展を見せることになる。やがて、この協同事業は、イスラーム世界における国際商業活動の浸透に伴う大衆の「資本主義」への参加によって、利子の禁止に対する回避の方法としての性格だけでなく、危険な国際商業に弱小な商人を含む多くの商人が参加するための、資本結集及びリスク回避の方法としての性格をも帯びるに至った。

公式な協同事業の種類は大きく「合資組合」(shirka)と、「持分資本」(qirā)の二つに分けられる。「合資組合」は組合員の全てが出資者である機能資本家より成り、企業はその合議制によって行われ、損失に対しては各組合員が無限責任を負う資本結合形態である。一方の「持分資本」は、機能資本家と持ち分資本家の両種の出資者より成り、機能資本家は労務を提供し、少ない利潤(通常は三分の一)を受け取るが、損失に際しては一切責任を負わない。これに対して持ち分資本家は資本又は商品を提供するが、一切労務を提供しない代わりに、損失に際してはこれを負担することを条件付けた資本結合形態である。両者、とくに「持分資本」はやがてイスラーム世界においてよりも、長い間ムスリム商人との接触の経験を持ち、さらに11世紀末に始まった十字軍以降地中海交易に猛烈な勢いで進出したイタリア諸都市国家の商人達の間においておおいに発展することとなる。これらの公式な協同事業は、あらゆる経済活動の分野で発達したが、とりわけ大規模な遠距離貿易、特に海上貿易においてよく用いられた。その内容を見ると、今日で言えば「雇用」とか「利子付き貸付」などの関係を結ぶべきところを、当時の当事者達は、これらの形式を避け、その代わり好んで組合関係に入ったようである。それは、利子付き貸付が宗教的に忌避されたためばかりでなく、「借手は貸手の奴隷である」という『旧約聖書』に由来することわざが示すように、貸付そのものが、借手に一種の隷属関係を押し付けるものと見なされていたためであろう⁷⁾。

4. 非公式な協同事業

11世紀末以降本格的に地中海における国際交易に進出し始めたイタリア諸都市国家の商人達が契約を非常に重視し、その業務の大部分が公式な協同事業、とりわけ「持分資本」(commenda)を基盤にしたものであった。これに対し、当時のユダヤ商人の間で交わされた商業文書一枚あたりにおける、公式な協同事業によって営まれた業務と非公式な協同事業によって営まれた業務の比率は平均して1対15~20⁸⁾であったという。ここでは、ユダヤ商人の間で盛んに行われた非公式な協同事業について、ゲニザ文書⁹⁾から具体的な例を引用しながら考察することにしてみたい。

あなた方の書状が届きました、神よ常にあなた方をお守り下さい。中身を拝見してあなた方の無事を知り、嬉しく思います。至高なる神に称えあれ。あなた方は親切にも委託商品を発送して下さいました。神の慈悲深い援助によってそれが到着しますように。神があなた方に十分報いますように。

- 中略 -

私はまた彼ら、即ちザカリーヤの息子達、神よ彼等を守りたまえ、に託して皮で覆われた箱を送りました。その中には絹製の上着、最上級の絹製で金色に染められた衣服が入っています。神の慈悲深い援助によって、全てが無事にあなた方のもとに届き、その後はあなた方の判

断でそれらを売却し、その収入で何かあなた方が相応しいと思うものを購入して下さいますように。難破による委託商品の喪失が心配です。あなた方と私の財産は一体であり、私の全ての利益はあなた方の資力から生じますので、この件についてはあなた方に一任します。

- 中略 -

あなた方の事業について引き続きお知らせ下さい。そうすれば、私の義務としてそれらを取り扱いますので⁽¹⁰⁾。

この記述からは、手紙の書き手の商人が受け手の商人に業務を代行してもらっている様子が窺える。しかも、業務を遂行する上で受け手の商人に対して相当な自由裁量の余地を認めており、臨機応変に商業活動を行うことによって最大の利益をもたらしてくれることを期待している。このようにして書き手の商人は居ながらにして遠隔地での業務をも遂行していることになる。一方で、受け手の事業の代行を申し出ている。ここに見られるのは、契約を介した公式の協同事業ではなく、親交によって結びついた非公式な協同事業の典型である。両者の関係が如何にして成立したかはこの記述からのみでは解明できないが、この関係は、両者がそれぞれの居場所における相手の業務を相互に代行し合うことによって維持され、上記の記述のように、相手の次の業務を催促することによって継続されていったものと考えられる。更に引用を続けたい。

長老にして我が主人たるアブー・ズィクリー、神よ彼を助けたまえ、へあなた方が送った積荷が到着しました。

- 中略 -

彼（アブー・ズィクリー）はあなた方との親交と婚姻を介した結び付きを求めています。そして、あなた方の名誉ある地位と、彼の事業に対するあなた方の助言から利益をあげたいと望んでいます。もし彼に、徒弟としてあなた方に仕えるのに相応しい息子がいたならば、彼にとってどれほど光栄なことでしょう。彼から預かった手紙は、巡礼に伴う隊商を介してそちらへおくりました。

- 中略 -

私はまた、しっかりと縁取りされた暗灰色の上着を欲しています。最上級ということであれば、それぞれ25ディナールあまり、またはそれを少し上回っても構いません。あなた自身の判断に従って行動して下さい。あなたは、神よ助けたまえ、私のために1ディルハムでも節約することに私以上に熱心であることを私は知っていますし、あなたにはそれが出来るので。それからライー⁽¹¹⁾産の白い上着も購入して下さい。以前依頼した祝祭用の衣装は、あなた方が我が主人たるアブー・ズィクリー・イエフダ、神よ彼を助けたまえ、に送ったようなものにして下さい。それが無理ならば、我が主人たるアブー・イブラヒーム・アイヤーシュが自分用に入手したような、赤くて、縞模様と曲線の付いたものにして下さい。1、2ディーナール高くなっても構いません。

- 中略 -

もう一つお願いがあります。あなた方に保証金を預けており、信頼できるムスリムが旅する隊商が出発するならば、あなた方の商品と同様に（エジプトにいる）私の兄弟達の商品も一緒

に送って下さい。そうすれば、様々な点で利益をあげられるでしょう。依頼を受けた衣料品の差額は、巡礼に伴う隊商に託してディーナール金貨でそちらに送ります。あなた方には、(エジプトにいる)私の兄弟達、神よ彼等を守りたまえ、のことを気に掛けて下さいなどと敢えて依頼する必要は無用です。彼等はあなた方と共に居るのだから。あなた方の居る所ならどこでも彼等は安心です⁽¹²⁾。

この手紙からも、契約を契機とする公式な協同事業は見受けられない。商業活動の基本は、やはり遠隔地に拠点を置く者どうしが当地で自らの業務の遂行に加えて、自身の判断を交えながら相手の希望を最大限に満たすべく相互の業務を代行し合う非公式なものである。一方、今回も手紙の書き手と受け手の関係が如何にして成立したかは不明である。しかし、書き手は第三者であるアブー・ズィクリーと受け手との関係強化にも少なからぬ貢献をしているものと考えられる。従って手紙の書き手と受け手の関係も、このように両者に共通の知人を介して成立したと推測することも十分可能であろう。また、書き手は、自らの拠点のみに留まっていたのではなく、自らの兄弟達を実際にエジプトに派遣している。しかも、この場合も兄弟達のエジプトにおける業務に便宜を図るよう受け手に非公式に依頼している様子が窺える。これ等以外にも、ベテランの商人から新米の商人に対するアドバイス風の手紙もある。次にそれを見てみたい。

もしあなたが引き留まるなら、良質の亜麻を4俵分購入しなさい。しかし、タンサーウィー家から購入してはならない。これ等の有力な商人と取引するほどあなたは力量がないのだから。あなたが購入できるものは、小規模な商人から自分自身で購入するのがよい。あなたの成功にとって何が最もためになるかがわかるでしょう。もしラックの質が良ければ、あるいはわずかしか入手できないならば、あなたの自由に出来る資金でそれを購入するようにしなさい。そして早めの船でディーナールやディルハムが届いたなら、よく乾燥された藍を購入しなさい。

- 中略 -

私は全ての手紙の中で、アター・イブン・イジュウがあなたに送った聖典の古写本に関して彼の手助けをするように促してきました。この件について、あなたが彼に対して出来ることは全てするよう望みます。というのは、それによってあなたも私も信仰上の利点を得ることになるからです。彼の要求を無視してはならない⁽¹³⁾。

この手紙からは、まだ商業の経験の浅い受け手に対して、商業上の助言者である書き手が商売の方法について指導している様子が窺える。当時の若い商人達は、恐らくこのようにして親戚や知り合いの商人仲間の一員となって指導を受けながら、実際の商業活動についての経験を積み、人脈を広げながら次第に一人前の商人へと成長していったのであろう。更に手紙をもう一例見てみたい。

もしよろしければ、シリア (al-Shām) において私の面倒を見ることの出来る人物に連絡を取ってもらえないでしょうか。是非お願いします。干し葡萄入りの袋が到着したら知らせて下さい。私は袋詰め的小麦を買います。あなたからの便りを楽しみにしています。近いうちにあ

なたからの手紙が届くことを希望しています⁽¹⁴⁾。

この手紙からは、書き手がシリアへ商用で出かけるに際して現地で便宜を図ってくれる人物を手配するよう受け手に依頼している様子が窺える。この書き手自身、各地に商業上のネットワークを有する有力な商人だったのであるが、シリア方面にはそのネットワークが及んでいなかったようである。このように、他の同胞の有するネットワークに参加することによって、当人のネットワークが広がるばかりでなく、別個に存在していた個々のネットワークが有機的に結び付いて全体として巨大なネットワークが形成されるに至ったようである。

最後に、やや長くなるが、開放された元奴隷からエジプトの有力な商人との間で交わされた手紙を一例引用してみたい。

我が偉大な長老にして主人へ、神よあなたの寿命を延ばしあなたの幸福を永遠のものとされますように。神がその慈悲をもって常にあなたに好意を示し、あらゆる悪事や嫌悪からあなたをお守り下さるよう。

私はこの手紙をシュバット月の始めに書いています。神がこの月を我々や全てのイスラエルにとってあらゆる月の中で最も幸福で祝福されたものとされますように。私は、最初の隊商であなたに手紙を送り、あなたが親切にも私に送ってくれた真珠が届いたことを報告しました。・・・神と我が主人であるあなたに感謝します。それらは利益と祝福をもたらしてくれました。神は讃えられよ。その積荷に含まれていた織物は私がアンダルスへ送っておきました。というのも、今年はそれらはここでは利益をもたらさないからです。

—中略—

我が主人よ、あなたに無理を言っていることは承知していますが、もし品質が良く、(巡礼のために)人々がメッカへ出発する前に入手出来るならば、私はあなたに真珠を購入するようお願いします。そして、それらをこちらへ(向かって)出発する最初の人に託して送って下さい。どうか陸路にてお願いします。もし真珠を入手出来なかったならば、巡礼に伴う隊商がメッカから戻り、神があなたにそれらを購入する機会を与えるまで資金を温存しておいて下さい。もし今年は真珠が不足しているならば、真珠はそちらへ送った資金の半額分だけにして、残りの半分の資金で良質の藍あるいは・・・を(購入して下さい。)これら全てを陸路で送るようにして下さい、神の御心なら。とはいえ、我が主人よ、あなただけが唯一判断を下す資格を持っているのです。

我が主人よ、神よあなたを守りたまえ、私に対して寛大であるようお願いいたします、というのも私はあなたの負担になっているからです。よって我が主人よ、この件については、それが故に神が現世においても来世においてもあなたに報いるように行われんことを⁽¹⁵⁾。

この手紙の書き手は、カイラワーンの有力な商人の元奴隷で、既に開放されて自由な身分となっているが、奴隷時代に主人の手足として各地を頻繁に往来する中で培った商売の経験や人脈を活かして、元主人や各地の有力な商人と非公式な協同事業を営んでいたのである。この例からも

分るように、奴隷も家族同様の信頼関係を有して、通商ネットワークの一端を形成していたのである。

5. おわりに

以上公式及び非公式な協同事業について見てきたが、公式な協同事業では、宗教による厳しい規制が存在するが故に、かえってそうした規制に反する事柄が制度として厳密に整備され、発展してきたことを確認することが出来た。一方、非公式な協同事業では、ユダヤ教という同一の宗教に属する者が、血縁や友情、地縁等に基づく強力な結束力を最大限に活かして日頃の活動、とりわけ商業活動に取り組んでいた様を確認することが出来た。

最後に、非公式な協同事業についてのゴイテインの分析を確認した上で、若干の補足を加えることとしたい。

1. 商人は、協同事業を営む（遠隔地）の商人から送られてきた商品を受け取り、最も高い利益を生む条件でその商品を売り、代金を収集する。そして、その収入から、指定された人物に対する支払いをする。次に相手の商人の注文に従って、あるいは本人の自由裁量に基づいて現地の商品を購入し、商売に最も都合の良い時期や発送条件を選んで購入した商品を相手の商人に発送する。時には、購入した商品を発送する前に商品に加工処理を施す場合もある。例えば、亜麻をあらかじめ梳いておく、織物を漂白しておく、真珠に穴を開けておく、など。これ等の業務は相手の商人のみならず、その友人の商品にまで及ぶことも稀ではなかった。
2. 非常に多忙な商人の業務を監督し、援助すること。商売の初心者や異国出身の商人に対して助言すること。
3. 商品の価格、貿易の総量、潜在的な需要、船や隊商の移動状況、その他業務を成功裡に行う際に必須の詳細な情報の収集及び交換。
4. 商用で移動する際に、他の商人の商品の輸送を請け負ったり、発送の管理をすること。

一度協同関係が結ばれると、それを基盤に業務が営まれるため、各地で相手の業務を相互に代行し続けること自体が協同関係の維持に貢献した。しかし、殆どの手紙には、両者の関係を継続させるため、次の業務や相手の消息を強く催促する内容の文章が加えられた。また、現地の支配者との間に緊密な関係を有することなどによって相手の商人の業務の代行を好条件で遂行できる商人は、そうした事実を強調することによって既に協同関係を結んでいる商人にその関係を継続させようとする動機を与えることができるだけでなく、まだ関係を結んでいない商人に新たに協同関係を結ぶことを求めさせる誘因とすることもできた。

また、当時の商人の習慣では、協同関係を結んである他の商人に若い息子を一定の期間預け、そこで商売についての指導や助言を受けさせながら実際の商業活動についての経験を積ませた。そして、息子がそうして培った商売のノウハウや人脈を活かして独立した一人前の商人に成長してからは、預け先の商人の娘と婚姻関係を結ばせて当地における事業を引き継がせることもあれば、その息子が他の地に移住してその地で預け先や父親の商人の代理人になることもあった。こ

うして非公式な協同関係は次の世代へと引き継がれ、それが何代にも及ぶことも珍しいことではなかったのである。

註

- (1) A.L.Udovitch, "At the Origins of the western Commenda: Islam, Israel, Byzantium?", *Speculum*, XXXVII (1962), pp.198-207.; S.D.Goitein, *A Mediterranean Society*, vol.1, Berkerey-Los Angeles, 1967 (以下Goitein, 1967), pp.169-183.他多数。
- (2) Goitein, 1967, pp.164-169.; A.L.Udovitch, "Formalism and Informalism in the Social and Economic Institutions of the Medieval Islamic World", in *Speros Vryonis and Amin Banani*, eds., and *Individualism Conformity in Classical Islam*, Wiesbaden, 1977, (以下Udovitch, 1977), pp.61-81.など。
- (3) Udovitch, 1977, p.62.を参照。
- (4) アラブによる地中海への進出と、それに対するビザンツ帝国や西ヨーロッパ世界の対応について、ピレンヌ (H.Pirenne)・テーゼとの関連において検討された西洋史家及びイスラーム史家による諸見解を簡単にまとめたものとしては、家島彦一『イスラーム世界の成立と国際商業』岩波書店, 1991年, pp.147-163がある。
- (5) 中世の地中海における交易史や軍事史の概説としては、以下のものが有益である。A.R.Lewis and T.J.Runyan, *European Naval and Maritime History, 300-1500*, Bloomington, 1985, pp.41-61.; A.R.Lewis, *Naval Power and Trade in the Mediterranean A.D.500-1100*, Princeton, 1951, pp.183-251.
- (6) S.D.Goitein, *Jews and Arabs*, New York, 1955,p.103.
- (7) 公式な協同事業の詳細については、Goitein, 1967, pp.169-179.; 佐藤圭四郎『イスラーム商業史の研究』同朋舎出版, 1981年, pp.59-74.; 湯浅尠男『ユダヤ民族経済史』新評論, 1991年, pp.114-115.等を参照。
- (8) Udovitch, 1977, p.73.
- (9) ゲニザ (Genizah) とは、ヘブライ文字の書かれた文書や儀礼用具のうち、既に使用されなくなったものを保管しておくためにシナゴークなどの建物に併設された保管所を指すヘブライ語である。中世のユダヤ社会では、ヘブライ文字で「神」や神名の書かれた紙を破棄しないよう、使用済みの大量の紙がゲニザに貯えられて保存された。この中で、特に19世紀末にエジプトのフスタート (オールド・カイロ) のパレスティナ系ベン・エズラ・シナゴークのゲニザから発見された大量の文書が「カイロ・ゲニザ」と呼ばれ、通常「ゲニザ文書」と言えばこれを指す。全体で25万枚以上にもなるゲニザ文書の原本は、現在イギリス、アメリカ、フランス、ハンガリー、ロシア、イスラエルなどを中心とする世界各地の19の図書館及び幾人かの個人によって分散して所有されているが、大半はケンブリッジ大学図書館及びオクスフォード大学のBodleian Libraryに所蔵されている。因みにエルサレムのユダヤ国立・大学図書館では、ほぼ全てのゲニザ文書がマイクロフィルム化されて自由に閲覧できるようになっている。ゲニザに使用済みの紙を貯蔵する習慣は、エジプトでは19世紀に至るまで継続されてきたため、発見された文書の書かれた年代の幅は9世紀から19世紀までと広いが、その大部分は11世紀初めから13世紀半ばに集中している。そしてこ

これらの文書が書かれた場所は西はイベリア半島から東はインドにまで及ぶ。25万枚余りの紙の内訳は、礼拝用の詩、宗教書の断片などに代表される文学的文書と、ユダヤ共同体の日常生活について書かれた記録文書に大別されるが、記録文書は全て合わせても（今のところ）2万枚余りである。記録文書の約半数は公私両面にわたる手紙、商業上の往復書簡であり、以下種々の契約書や婚姻・離婚証書、ラビ法廷の裁判記録、帳簿、計算書などと続く。文学的文書の大部分がヘブライ語で書かれているのに対し、記録文書の大半はヘブライ文字表記の中世アラビア語で書かれている（Judaeo-Arabic）。ゲニザ文書は、中世ユダヤ社会及びイスラーム世界、また当時の東西交易の様子を解明しようとする社会経済史の分野に大きく貢献する史料としても、今後の更なる研究の進展が待たれている。

(10) TS 13 J 25 f.18.; Goitein, 1967, pp.164-165.

(11) 当時のイランの地名。

(12) TS 12.133.

(13) TS 20.180.

(14) ULC Or 1080 J 167.

(15) TS.8.12

参考文献

Encyclopaedia of Islam. New ed., 8vols., Leiden, E.J.Brill, 1960-

Encyclopaedia Judaica. 16vols., Jerusalem, 1971

Abulafia, D. *Commerce and Conquest in the Mediterranean, 1100-1500*. Great Britain, 1993

Ashtor, E. *A Social and Economic History of the Near East in the Middle Ages*, Berkeley-Los Angeles, 1976

idem, *Studies on the Levantine Trade in the Middle Ages*. London, 1978

idem, *The Jews and the Mediterranean Economy 10th-15th centuries*. London, 1983

Curtin, P.D. *Cross-cultural trade in world history*. Cambridge, 1984

Goitein, S.D. *Jews and Arabs*. New York, 1955

idem, "Commercial and Family Partnerships in the countries of Medieval Islam." *Islamic Studies*, vol.3, 1964, pp.315-337

idem, *Studies in Islamic History and Institutions*. Leiden, 1966

idem, *A Mediterranean Society*. 5Vols. Berkeley-Los Angeles, 1967-88

idem, *Letters of Medieval Jewish Traders*. Princeton, 1973

Hirschberg, H.Z. *A History of the Jews in North Africa*. Vol.1. Leiden, E.J.Brill, 1974

Hourani, G.F. *Arab Seafaring*. Princeton, 1995

Lewis, A.R. *Naval Power and Trade in the Mediterranean A.D.500-1100*. Princeton, 1951

idem, *European Naval And Maritime History, 300-1500*. Bloomington, 1985

Lopez, R.S. & Raymond, I.W. *Medieval Trade in the Mediterranean world*. New York, 1955

Stillman, N.A. “The Eleventh Century Merchant House of Ibn ‘Awkal.” JESHO 16 (1973) pp.15-88
idem, *The Jews of Arab Lands*. Philadelphia, 1979

Udovitch, A.L. *Partnership and Profit in Medieval Islam*. Princeton, 1970

idem, “International Commerce and Society in Mid-Eleventh Century Egypt and North Africa”, in
A.L.Udovitch and Haleh Esfandiari eds. *The Economic Dimensions of Middle Eastern History*, Princeton,
1990, p.240.

Business Cooperation among Medieval Jewish Traders in the Islamic World

Hideharu SHIMADA

The Medieval Islamic Mediterranean trade was based mainly on two types of business cooperation. The first one was formal partnership, and the second informal business cooperation. Formal Partnership refers to institutions whose structures and rules are defined more or less precisely by law or custom with clearly defined limits, expectations, prescribed ways and procedures of achieving goals, asserting rights, or redressing grievances. On the other hand informal business cooperation is a set of informally defined institutions that do not possess the properties just mentioned above. They are unstructured, seemingly formless, very flexible, and above all very personal in nature. Based on the aforementioned, this paper explains how two modes of formal and informal business cooperation contributed greatly to the formation of networks among the Jewish traders in the Islamic world in connection with the Jewish religion.